

建築主：社会福祉法人福祉楽団  
 設計：アトリエ・ワン  
 施工：石井工業株式会社  
 所在地：香取市沢2459番1

福祉と豚のしあわせな関係

# 恋する豚研究所



庭からの外観 レストラン、オフィス、広場などの機能が割り当てられた4つの寄せ棟を複合した屋根 (撮影/アトリエ・ワン)

寄せ棟の赤い屋根が重なり合う佇まいに引きつけられて目をやると、「恋する豚研究所」の看板に出会う。レストランもある。ネーミングに好奇心をかき立てられ、ちょっと特別な豚が食べられそうで、立ち寄ってみる人が少なからずいるのではないだろうか。

主階である2階ののびのびした空間がいい。杉林の緑にすっぽり包まれ、レストラン+売店と事務所がある。これら屋内空間は大きくとられた屋外空間でつながっている。事務所もレストランと同じくらい居心地がいい。真ん中に薪ストーブとキッチンがあって、窓一面に里の風景が広がっている。

1階は主に食肉加工場である。継続就業支援A型の施設で、現在16人の障がい者が働いている。恋する豚プロジェクトの原点は、福祉に携わる人の熱い思いだった。わが国の障がい者平均賃金は月額1.3万円だが、10万円は支払って誇りをもって仕事してもらいたい。これに、地元の養豚業が結びついた。養豚業者は生

産性向上の限界を感じ、付加価値を模索していた。福祉と農業が知恵を出し合ったことにより生まれた新しいかたちの里の景観である。おいしい豚であって、さらに障がい者雇用のささやかな助けになるとなれば、少し値段が高くても思わず応援したくなる。ビジネスクラスの機内食で採用されたという。

車でアクセスする施設ではあるが、駐車場の配置が工夫されている。もう少し樹木が育てば、町外れの瀟洒なヴィラに似たような姿に育っていきそうな気配だ。恋する豚たちがほんとうに出迎えてくれたらもっといいのに、とも思うが養豚場の現場はまた別の世界なのだろう。(岡部 明子)



「広場」と呼ばれる半屋外的空間  
 地域に開放され、音楽会など多目的に利用されている (撮影/アトリエ・ワン)



レストラン  
 周囲の杉林が借景として美しく切りとられる (撮影/アトリエ・ワン)